

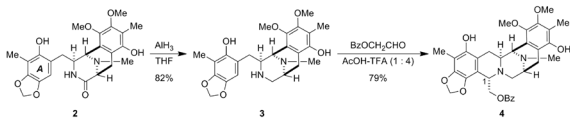
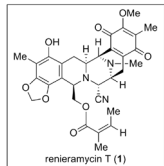
# 29pmM-005

## 新規抗腫瘍活性海洋天然物レニエラマイシン T の全合成研究 (2)

○木村 真也<sup>1</sup>, 齋藤 直樹<sup>1</sup>(<sup>1</sup>明治薬大)

【目的】青色海綿 *Xestospongia* sp. 由来の新規極微量海洋天然物として見出したレニエラマイシン T (**1**) はエクチナサイジン-レニエラマイシンハイブリッド構造を持ち、強い殺細胞活性を示す。<sup>1)</sup> 我々は **1** のユニークな構造と生合成に興味を持ち、その全合成研究に着手した。

【方法及び結果】すでに我々が報告したエクチナサイジンやレニエラマイシンの合成研究成果<sup>2)</sup>を基盤として、三環系ラクタム **2** を合成した。次に **2** の Pictet-Spengler 反応による基本骨格の構築を試みたが不成功であった。この主な原因として、A 環部の置換様式あるいはラクタムカルボニル基が反応性に乏しいことが考えられた。そこで、A 環部の反応性について検証すべく、**2** から誘導したアミン **3** に対する Pictet-Spengler 反応を行ったところ、五環系化合物 **4** を得ることができた。現在、**4** の C-1 位のエピ化について検討中である。



1) Daikuhara N. *et al.*, *Tetrahedron Lett.*, **50**, 4276-4278 (2009).

2) Saito N. *et al.*, *J. Chem. Soc., Perkin Trans. 1*, 53-69 (1997).

Yokoya M. *et al.*, *Tetrahedron Lett.*, **52**, 2446-2449 (2011).